

# 九州民放クラブだより

## 藍染め体験ツアー

後藤 文利(TNC)

「ハンカチを藍で染めて見よう」秋の私たち民放クラブ福岡の日帰りツアーです。平成30年10月25日、秋晴れの福津市津屋崎「藍の家」に会員ら9名が集まりました。

藍染め研究家、柴田奈緒美さんの指導で初めての藍染めにチャレンジです。「藍の家」の裏庭には大きなタンクに藍が泡を立てています。この生きた藍でハンカチを染めるのです。柴田さんから「ハンカチを所どころ輪ゴムで括ります。そこに藍は付きません。残りの生地どんな模様をつけるか考えて下さい」と、いろんなサンプルを見せていただきます。

暫く頭の体操です。頭の中で、ここに渦巻き紋を創り、この辺に濃淡のグラデーションを創る。やり直しはできません。

長ゴム手袋にエプロン姿で準備完了。ハンカチを藍に漬ける長さで濃淡が決まります。頭の中で「一秒、一秒…」と数えてさあ、勝負、引き揚げて素早く水洗い。

輪ゴムをはずすと見る見る間に、

藍で濃淡が出来た藍染めハンカチが姿を見せます。そのあと幾度も丁寧に水洗いして、はい、完成。イメージより遥かに面白い染め上に「やったあ！」と歓声が挙がります。



労作の藍染め作品を手に  
記念写真

日本伝統である藍染めの初めての体験。お互いに品評会です。「面白かった。またチャレンジしたい。」

藍の家の前で自慢の作品を持って記念写真を撮りました。「ハイ、チーズ」というのを、誰かが「ハイ、バター」と音頭を取り大笑い、笑顔がはじけた一日でした。

## ラグビーw杯日本大会

高まる期待・開催地大分

矢野 建三(OBS)

世界の強豪チームが激突するラグビーワールドカップ(w杯)日本大会がこの秋、日本国内12の会場で開催される。開催地のひとつ大分は、会場準備も整い、開会を待つばかりになった。県民の期待も膨らんでいる。



大分スポーツ公園総合競技場  
(4万人収容)

大分では10月10日から10月20日の間、大分スポーツ公園総合競技場で、予選(プール戦)3試合と準決勝2試合、合わせて5試合が行われる。

予選は、世界ランキング1位のニュージーランドとカナダ、オーストラリアとウルグアイ、更に、世界ランキング7位のウェールズとフィジーがそれぞれ対戦する。

いずれも世界屈指の強豪チームで熱い戦いに早くもファンの期待

が集まっている。会場の大分スポーツ公園総合競技場は2002年のワールドカップサッカー大会の九州唯一の会場となった開閉式ドーム競技場。収容人数は4万人、ラグビーのハードな試合に備えるためすでに芝を張り替えた。またプレーを大きく観やすくしようと会場内に大型モニターが増設される。

一方ニュージーランド、オーストラリア、ウェールズの3チームが公認キャンプを張る別府市はすでに200人のボランティア会員を募集、チームの支援をはじめ観戦に訪れる人たちの案内や街の環境美化にあたる。また大会期間中、JR大分駅では大型スクリーンが設置されてパブリックビューイングがあるほか周辺地域でも同様のイベントが予定されており大会を盛りあげる。一般向け観戦チケットは1月中旬、公式サイトで販売され希望者が殺到した。チケットは5月にも再度売り出される。

アジアで初めて開催されるラグビーワールドカップ2019日本大会は、海外から大勢のファンが訪れ、地方都市大分はその経済効果に大きな期待が寄せられている。